

研究・イノベーション学会 第 36 回年次学術大会シンポジウム

「データ駆動による新しい社会科学『ソーシャル・データサイエンス』の創生」

近年の自然・社会環境の大幅な変化により市民社会は様々な困難な課題に直面している。これらは社会の課題であるものの、従来の社会科学のアプローチで解決することは困難であり、新しい科学的枠組みが求められている。また、情報技術の進展により発展したデータ駆動型科学は、本格的なビッグデータ時代の到来により、複雑な社会課題の解決などを通じ、その真価を発揮しようとしている。

科学技術イノベーション基本計画（第6期）では、社会科学は社会のための学術として位置づけられるなど、STI 政策上の位置づけも大きく変わりつつあり、このような情勢を機運として捉え、データ駆動型科学を社会のための学術として位置付ける「ソーシャル・データサイエンス」が展開しつつある。本シンポジウムでは、社会科学の今後の発展の可能性について、広範な分野の研究者の参画を得ながら、議論していきます。

日時：令和3年 10 月 30 日（土）15 時 00 分～17 時 30 分

場所：Zoom ウェビナーによるオンライン開催（アクセス先は大会参加者に対し、後日連絡します）

共催：国立大学法人 一橋大学

プログラム

開会挨拶

中野 聡（一橋大学 学長）

司会 吉岡（小林） 徹（一橋大学イノベーション研究センター・講師 大会実行委員）

特別講演 20 分

- ・ 上山隆大（総合科学技術・イノベーション会議 議員）
「科学技術・イノベーションの現状と社会科学への期待」

招待講演 20 分

- ・ 鈴木真介（The University of Melbourne Brain, Mind and Markets Laboratory 准教授）
「社会科学と自然科学の融合に向けて」

パネル討論 80 分

「データ駆動型アプローチによる新しい社会科学の可能性」

ファシリテータ：七丈直弘（一橋大学大学院 経営管理研究科・教授 大会実行委員長）

パネリスト

- ・ 上山隆大
- ・ 鈴木真介
- ・ 寺田麻佑（国際基督教大学・上級准教授）
- ・ 清水千弘（東京大学空間情報科学研究センター特任教授・日本大学教授）
- ・ 渡部敏明（一橋大学ソーシャル・データサイエンス教育研究センター長）

閉会挨拶 原山優子（研究・イノベーション学会 会長）

（敬称略）